

## 令和7年度 伴走型小規模事業者支援推進事業 地域経済動向調査まとめ

(令和7年(2025年)6月値 要約版)

この調査まとめは、経営者の皆様が経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的として作成しました。  
たつの市及び西播磨地域が、全国と比較してどのような特徴や傾向があるのかを分析しています。

(データ出先：小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、西播磨地域景況調査、たつの市商工会景況調査)

### 産業全体の景気動向の推移

〈用語説明〉DI値＝「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す  
(例：調査4件のうち「好転1/悪化3」の場合、25%－75%＝▲50%がDI値)

#### <概要>

今回の調査結果では、中小企業全体の景況が前回より改善したことを示している。ただし、最新の日銀短観(2025年6月)の調査結果では、中小企業の業況判断DIは、コスト増や人出不足の深刻化に加え、海外経済の減速や米国による関税引き上げへの不安などを背景として、製造業、非製造業ともに「先行き」の見通しが悪化している。DIは4-6月期に上昇する傾向があることも踏まえ、今後の中小企業景況の動向には引き続き注意が必要である。

#### <地域別業況>

##### 【全国】

2025年4-6月期の業況判断DIは、全産業▲15.5(前期差2.2pt減)で悪化。製造業▲20.4(前期差2.8pt減)で悪化。建設業▲13.3(前期差4.2pt減)で悪化。商業▲20.3(前期差3.0pt減)で悪化。サービス業▲8.1(前期差0.9pt減)で悪化。あらゆる業種において業況は悪化しており、比例して採算も悪化傾向である

##### 【兵庫県】

管内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、緩やかに増加している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。こうした中、生産は、横ばいの動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年を上回って推移している。

##### 【西播磨】

業況▲20.5(前期差11.9pt増)で回復。売上高▲17.3(前期差5.5pt増)で回復。採算状況▲26.8(前期差15.1pt増)で回復。資金繰り▲13.4(前期差13.1pt増)で回復。来期への見通し▲27.6(前期差4.8pt増)で回復する見込み。

##### 【たつの市】

業況▲28.1(前期差6.5pt減)で悪化。売上高▲7.0(前期差3.2pt増)で回復。採算状況▲56.1(前期差13.2pt増)で回復。資金繰り▲33.3(前期差8.7pt増)で回復。来期への見通し▲49.1(前期差17.9pt増)で回復の見込み。  
いずれのDI値も回復しているが、昨年末からの極端な落ち込みからやや立ち直った形であるため好転したとは言いがたい。利益率が悪化している旨の回答が多く見受けられた。

#### <産業全体業況>

6月期の産業全体の景況は、業況DIがわずかに上昇、採算はわずかに低下し、売上額・資金繰りDIは不変であった。価格転嫁も十分ではなく、節約志向による買い控えも影響している。製造業を除き各DIはほぼプラスで推移したが、2025年6月の日銀短観の調査結果では、先行きの見通しが悪化していることから、今後の動向には引き続き注意が必要である。

#### <総括コメント>

全国的な景気は、緩やかに回復しているが、米国の通商政策等による不透明感がみられる。先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に一層注意する必要がある。

たつの市の中小企業においては、消費活動の活発化に伴い売上の回復はみられるが、採算が伴っていない事業所が多い。また、留意点として昨年度下半期以降より業況と資金繰りのDI値が全国の調査結果と比例した動きになっていない。都市部の大企業も多く含まれる全国の調査と地方都市の中小企業を中心とした調査であることによって発生している差と考えられる。中小企業の強みである迅速な経営判断を用いて外的要因に左右されづらい経営計画を整える必要がある。

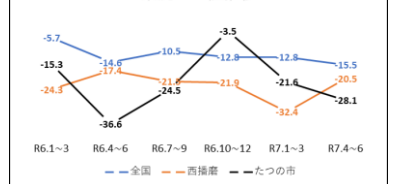
#### 管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率＝求人数÷求職者数(例：2.0倍＝20件÷10人)

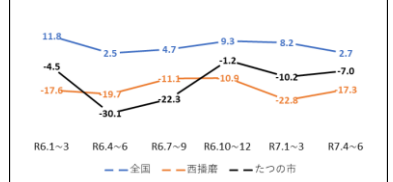
令和7年6月期の有効求人倍率(季節調整値)は、全国1.26倍、兵庫県1.00倍、龍野管内0.86倍となっている。兵庫労働局は、県内の雇用情勢について情勢判断を据え置き、「持ち直しの動きに弱さがみられる」との見方を2カ月連続で示した。ただ人手不足の基調は続いているが、新規求人倍率が改善するなど、雇用の強弱感はまだまだ模様。「物価上昇等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」との指摘も維持した。

※統計をまとめる都合上、右表の求人倍率は「原数値」で記載しております。

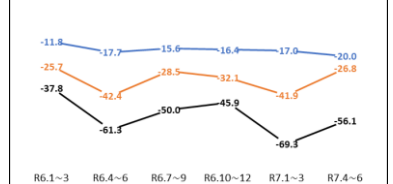
業況DI値推移



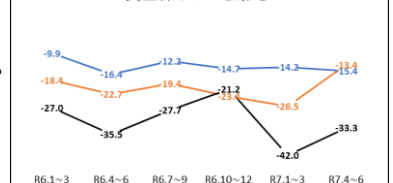
売上DI値推移



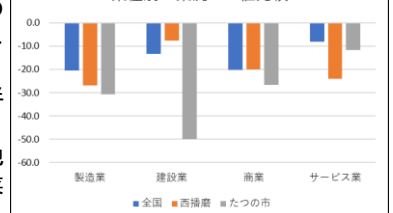
採算DI値推移



資金繰りDI値推移



業種別 業況DI値比較



有効求人倍率(原数値)推移

